

## 池田大作先生と教育

賈 蕙 萱

### はじめに

先ず結論を述べさせていただきます。池田先生は偉大な教育者であります。池田先生は明確な教育理念を立て、教育実践を通して、教育界に存在している四大関係を解明されました。これらによって、教育へ大きな価値を創造されました。もしこの論点の根拠は何かと聞かれたら、これから私が申し上げる池田先生の教育についての5つの角度から見た特色をお聞きになれば納得されるものと思います。

### 1. 明確な教育理念

『創価学会指導集』に「教育理念とは、先ず何よりも、人間に対する徹底して深い洞察と理解、そして、愛情がその根幹となるべきものといえる」とある。池田先生が言われた内容である<sup>(1)</sup>。

池田先生の上述の理念は、一言で言えば「人間主義」である。教育を通して、人間への洞察、理解、愛情の能力を高め、一人前の人間になる。洞察力を持てば人間の良し悪しを知ることができる。理解すれば人間を助ける気持ちが出るのである。愛情を持てば幸福感が出て来て、自我が生じる。このような人間は社会で活躍する時、本人自身の人間革命ができるばかりでなく、他人の人間革命をも手伝えることができると思うのである。

池田先生の北京大学での講演の中に「人間を作り上げる事業こそ、すなわち教育にほかならない」とある。「人間」の内なる無限の可能性を開き鍛え、そのエネルギーを価値の創造へと導くものこそ教育である。いわば教育は社会を築き、時代を決する根源の力である。この言葉を分析すれば教育という手段を通して、先ず立派な人間を作り上げる。また教育を受けた人を導いて、そのエネルギーでもって、よりよく社会を築きあげるのである。

池田先生はトインビー博士との対談の中でも教育のあり方に触れて、「人間はどうあるべきか、人生はどう生きるべきか」について述べられている。

教育理念について各角度から、数多くの論述をされている。こまかく推敲し琢磨して、池田先生ご自身の言葉で総括するとしたら、最も真意に近い言葉は、「人間性の完成、人格の陶冶を目指す教育の理念」といえるであろう<sup>(2)</sup>。また『人生抄』では、「私は、この全体人間を志向した人間教育の必要性を強調したいと思う」<sup>(3)</sup>とある。

私なりの理解であるが、池田先生の教育理念は、一言で言えば、創造的な人間、心のある人間、社会に貢献する人間に育てるということであると思う。

### 2. 教育への遠大な見識と卓見

ご承知の通り、池田先生が十年一日の如く携わってこられた事業は何だったのかと言えば、

---

Jia Huixuan (北京大学日本研究センター副主任・教授、北京大学池田大作研究会会長)

三つの大きな柱がある。つまり平和、教育、文化である。その三本柱の中で最も力を傾注されたのは教育だと思う。これは私が教師だから特に教育を偏愛するのではなく、事実である。30年前、第3回創価大学入学式で講演された中に、「私のこれからの最大の仕事も教育である。私の死後30年間でどう磐石なものとしていくかに専念していく決心である」、「教育には我が身を惜しまぬ信条で参りました」<sup>(4)</sup>とある。また、1992年北京大學での講演の中でも「教育こそ我が人生総仕上げの事業である」「教育に人生を捧げていく決心である」と言われている。

『21世紀の教育と人間を語る』というご著作では、「平和の王道、人間主義の原動力こそ、教育である」<sup>(5)</sup>と、また、池田先生は創価教育者へのスピーチで「人間の幸福を築くために教育に勝る兵法なし」とも言われた。昨年、創価大学の入学式で池田先生は全魂をこめて次のようにスピーチされた。「皆さんが、どれだけ立派になれるか。成長していけるか。そのためなら私は、何でもしてあげたい」。このような3つの言葉だけを分析しても、池田先生は教育に対して、どれだけ重視されているか、教育は池田先生の心にどのような地位を占めているかよく分かる。重視してこそ、初めて卓抜した見識が出ると私はこう考えるのである。

池田先生の教育思想の中に一貫しているものがある。それは人間教育である。言い換えれば人間革命といってもよい。

歴史をふり返ってみれば、凡そ後世に影響を与えた偉人はほとんど教育を重んじている。教育は社会の進歩と人類の文明に関わる重要な問題である。中国には「木を育てるのは十年、人を育てるのは百年」という諺がある。遠大な卓識がなければ意欲も出て来ないであろう。中国の偉大な教育家である孔子は多くの弟子を育て、師弟の知恵を表す不朽の傑作『論語』を人類文明に残した。後世の人々は『論語』の名句をよく引用する。その中で日本人々に馴染み深いのは「朋有り、遠方より来たる、亦樂しからずや」や「少年老い易く学成りがたし」などである。それゆえ、孔子を「天下文官の主、歴代帝王の師」と称賛されている。

現代日本の文豪井上靖先生は、彼の傑作『孔子』と言う小説を書き終えて、間もなく、1989年10月23日朝日新聞の夕刊に、「孔子は乱世が生み出した紀元前の学者、思想家、教育家であるが、孔子の場合、その仕事の内容は、現代に於いて、いささかも古くなっていない、孔子は永遠不滅の人類の教師なのである。」と言っている。日本の学者である伊藤仁斎先生は、『論語』は「宇宙第一書」<sup>(6)</sup>であると評価されたのである。

池田先生が尊敬されている中国近代の偉人孫文は、人材を育てる重要性を認識して、経済困難の時期でも中山大學と黃埔軍官學校という文と武の學校を創立した。

また、ユダヤ人は何故賢いのであろうか。教育を重視し、高いレベルの教育を受けたせいだと考える。ユダヤ人が集中するイスラエルでは5歳から16歳まで義務教育を受けなければならない。もし本人が続けて勉強したいなら、18歳まで政府が無料教育を提供するとの規定があり、ほかに、一人あたりの図書館、出版社の占有率は世界一である。ユダヤ人の家庭で誰もが知っている伝統的言葉があるが、それは次のように言っている。即ち「世の中に金鉱とダイヤモンドより価値が高い物がある。あなたの生命が存在する限り、その物がずっとあなたに付いている。それは知恵である。」と。ユダヤ人はどこへ行っても子供の教育を重視し、勉強が好きである。ゆえにユダヤ人で非凡な業績を収めた方が多いのである。たとえば理論物理学者で相対性理論の首唱者・アインシュタイン、喜劇俳優チャップリン、作曲家ベートーベン、『資本論』を書いたマルクスなど。アインシュタインが他界したあと、医者は彼の頭を解剖してみて、普通の人の脳の大きさより小さいとわかった。この事はいったい何を物語るのであろうか。アインシュタインがよい教育を受けて、それによく勉強して物理分野で優れた価値を創造したという

0202ことである。中国の俗語にある通り、「天下には天才がいない。天才は勤勉である」。勉強しなければ誰でも天才となれないのである。

池田先生の教育への遠大な見識と卓見は、青年時代にその歴史的根源があった。池田先生が幼いとき、家庭の苦境に見舞われた。青少年の時期は、太平洋戦争、中日戦争の時代であった。しかし、池田先生は読書少年であった。青少年時代に数千冊の本を読んだのである。私が想像するには、先生はきっと名門大学で沢山の事を学びたかったのではないかと思う。しかし、結局その希望は叶うことはなかった。

師弟関係も、池田先生が教育を重視するようになった一因である。牧口初代会長、戸田二代会長は皆、優れた教育者であった。「人間主義の源流は教育である」という言葉があるように、教育は、初代会長の心に大変大きな地位を占めていた。ご存知の通り、創価学会の最初の名称は、創価教育学会であった。戦後、創価学会の活動範囲を拡大するために、会の名称から「教育」を取って、創価学会という名前となったとうかがった。しかし、教育を重んずる初心は変わることはなかった。恩師戸田先生から「大作、創価大学を作ろうな。私の健在のうちにできればいいが、……そのときは、大作、頼むよ<sup>(7)</sup>」。と話されたという。恩師は教育について池田先生に大きい期待をかけられた。以上の諸原因により、教育は池田先生にとって、「任重くして、道遠し」となったに違いないであろう。中国で正しい認識は実践から生まれるという言葉がある。

その後、数十年の教育実践を経て、池田先生は創価教育を体系化、理論化、具体化された。このようにやって来られた池田先生が、教育への遠大なるビジョンと卓抜した見識を持たれたことは当然の事である。

### 3. 幅広い教育実践

私は教育実践という言葉を広い意味で使っており、学校で教育に携わるだけでなく、凡そ人間に教育を与えるすべての手段を指している。池田先生は戸田会長の弟子となってまもなく、教育に着手されたといっても過言ではないと思う。1968年4月8日の創価中学校と高等学校を創立してから、もうすでに40年近くになっている。池田先生の教育思想は、『論語』で言えば30才の“而立之年”を経て、40歳の不惑の成熟期を迎えた。単に、池田先生が創立された教育機関を見ただけでも幅広い教育実践を知ることができる。幼稚園から大学まで合わせて14校あり、つまり1ダース以上の学校を創立されたというのは、生易しいことではないのである。3校の高等教育の学校（創価大学、創価女子短期大学、アメリカ創価大学）、4校の中等教育の学校（創価中学校、創価高等学校、関西創価中学校、関西創価高等学校）、2校の小学校（東京創価小学校、関西創価小学校）、5つの創価幼稚園（札幌、香港、シンガポール、マレーシア、ブラジル）。ほかに、多数の研究機関をも創立されたのである。池田先生は宗教団体のリーダーであるので、教室で授業を行う時間がない。しかし、池田先生は多大な著作、スピーチ、講演、対談、写真、色紙などを通して、幅広い人々に教育活動を行っている。池田先生の言葉でいえば、「教育の根本は人間を育てることであり、人間形成である。人間革命以外になにもものでもないのである<sup>(8)</sup>」。池田先生はあらゆる時、あらゆる所で全身全魂を使って教育の重要性を声を大にして訴えたのである。

池田先生は外国の有名大学と研究機関で31回にわたり講演をされて、そして好評を博された。これらはいずれも人間教育のよいテキストである。池田先生の“少年”と“青年”という文章はそれぞれ、中国の初等中学校、高等中学校の国語教科書に収録されている。創価大学学生自

治会が編集した『創立者の語らい』上、中、下という分厚い本も数え切れない人が読んでいると思う。私はその本の愛読者である。だからこそ、私の考えでは、池田先生は、あまり教壇に上がらない優れた教育者である。

教育は歴史の発展と共に、包含する内容が豊富になってきた。現代の中国では教育の意味を広く解釈するようになった。有意義な講演を見たり、映画と演劇を鑑賞したり、小説を読んだりしたら、「よい教育を受けました」という。日本の場合は、「よい勉強になりました」であろう。意味は同じであるが、表現が違う。

池田先生の教育実践は、他の一般的な教育者と比べると大きく違う所があると思う。それは国際的な教育実践である。国際的というのは3つの意味がある。池田先生ご自身は国際人であるので、先生の活動が学生に国際的な影響を与える。先生は大学に対して何回も国際的な教育への要求を出されたことがある。例えば、「大学が社会に貢献し、国家、世界の進歩、発展に役立つ人材を育成することを目指すのは当然である」といわれた。また1985年、創価女子短期大学の開学にあたり、池田先生から建学の指針が送られた。その中で学生に国際的視野に立つて学ぼう希望され、「社会性と国際性に富む女性」を指針のひとつとした。また『青春対話2』に「日本人は語学に励み、海外の人と直接語ることが重要だと思います。それが、人類社会に貢献していくための重要な‘鍵’であります<sup>(9)</sup>」とある。池田先生のこれらの言葉は全く正しい。外国語は国際交流の道具であり、掛け橋である。外国語を身に付けると同時にその国の文化、歴史、生活習慣なども覚えられる。外国語を勉強すると一石二鳥の力がつく。異文化が多く身に付けば自然に視野が広がる。各民族の思惟方法はそれぞれ違うので、人間の脳への刺激を与える。刺激を受けた脳は常に動いて賢くなる。もうひとつは、外国語の原著とその翻訳を読み比べるとその表現の差がわかる。というのは、異文化だから対等の語彙がない場合があるからである。どんな上手な翻訳者も百パーセントの正確な翻訳はほとんど不可能である。原文と多少の差がある。

池田先生の教育実践は素晴らしい成果を収めた。多くの逸材を育て、創価教育の学校の卒業生はすでに各分野に就職し、活躍している。創価大学の通信教育部は在籍者数、卒業率、ともに日本一である。池田先生の教育思想が日本国内外の有識者に称賛されている。今まで池田先生はすでに150の名誉称号を受けられた。中国だけでも50以上ある。創価大学だけでも世界の85の大学と学術交流協定を結んでいる。池田先生は数え切れないほどの著名人と出会い、対談を行って、素晴らしい経歴を持たれた。これも創価教育学の宝物、財産だと思う。上記のことを分析すれば、言うまでもなく、池田先生は幅広い教育実践に携わってこられたといっても過大評価ではない。

#### 4. 解明された教育界の四大関係

中国に「正しい認識は実践から生まれる」という言い方がある。池田先生は幅広い実践を経て、教育に対して、大変深い理解を得られたと思う。先生は教育界の四大関係に対して独特な見解を持っている。以下順序に従って説明する。

##### (1) 家庭と子供の関係

池田先生は次のように言われている。「母は子供の最初の教師である」、「教師、親は最大の教育環境である」、「子供は親の背中を見て育つのは今も昔も変わらない。親の人生観、目的観がおのずと子供に伝わっているのは間違いないであろう<sup>(10)</sup>」、「子供は自分を映す鏡である<sup>(11)</sup>」

と。池田先生は教育を語る時に、「子供をあくまでも、一個の人格として認め、子供の知恵と可能性を信頼していくうえに成り立っていくのである<sup>(12)</sup>」等と言われた。

親と子は生命次元の絆だから、互いに響き合う。親の言動が子供の心に深く刻まれるのは疑う余地がないという。中国の言葉に「三歳看大、七歳看老」、直訳すれば、「三つ子の魂、大人まで、七つ子の魂、老後まで」という事で、日本では、「三歳までが勝負」の言い方があるようであるが、親、家庭からの影響が幼少年の成長に対してとても大きくて生涯にわたって、刻印されるのである。

中国の一人子政策により、「小太陽」、「小皇帝」がたくさん生まれた。中国の人々は次のような言い方をする。「息子が生まれたら、親は息子になってしまう。孫が誕生すればお爺さん、お婆さんは孫になる」。一言で言えば、子供に孝行してしまう。子供を中心にした社会はよくないなので、現在教育を改革している。ある優秀な中学校は厳しい要望を出し、次のように言った。「品行がよくない生徒は危険品、知力がよくない生徒は二等品、体力がよくない生徒は不合格品である」と。現在、徐々によくなっている。

池田先生は子供に「皆さんは、親を生涯、大切にしていける人になっていただきたい<sup>(13)</sup>」と託されたことがある。中国では、「父母の恩は山より高く、海より深し」という親孝行の言い方がある。

## (2) 学校と学生の関係

「学校が子供にとって常に『学ぶ喜びの場』となり、『生きる喜びの場』となるよう挑戦を続けることが、教育の生命線である<sup>(14)</sup>」。「教育の根本はあくまでも生徒である。生徒に自覚が有るかどうかが決まる。生徒が主体である<sup>(15)</sup>」。これらの言葉は池田先生がよく言われる次の教育思想と同じ意味だと思ふのである。つまり、「学校の主役は学生である」、「創価大学は学内の運営に関しても学生参加の原則を実現し、理想的な学園共同体にしていきたい<sup>(16)</sup>」ということである。すなわち学校が学生を重視し、学生の人格を尊重すれば学生の勉強意欲を引き出すという目的に達することができるのである。これも池田先生の一貫した思想といえよう。

「真理の探究にあたって、人間を基調にし、その本質を解明し、徳性を啓発することに最大の目標をおいたからであると私は考えるのである<sup>(17)</sup>」。「人間形成の最大事はなんといっても教育にある<sup>(18)</sup>」。「創価大学に学ぶ皆さん方は創造的な能力を培い、社会になんらかに意味で未来性豊かに貢献していく人になっていただきたいのであります<sup>(19)</sup>」といわれた。

これらのお話を通して、明確に学校はよい人間を育てる場所であると言われている。学校で学ぶ学生は創造的な自己を形成するために努力しなければならないのである。

中国の教育方針は教育を受ける者に対して、徳育、知育、体育を全面的に発展させることである。徳育を一番前に置くことは品行を重視することを意味している。池田先生の人間形成と人格への教育を重ずる教育思想と一致していると思う。

## (3) 教師と学生の関係

「教師は生徒に教えるとともに、生徒から刺激を受けて学ぶ。この『双方向』の対話が必要である。教育とは『与える』と共に『学ぶ』こと、そして、人間から何かを引き出すことではないでしょうか」と池田先生は指摘された<sup>(20)</sup>。

現在、情報化社会を迎え、向学心の強い若い学生達はインターネットで各種知識を身に付けてる。年配の先生は経験が豊富であるけれども、新知識、新事物に付いては学生のほうが返って

多いかも知れない。教師は学生から学び取る所もある。池田先生が言われた「双方向」は全く正しいのである。

池田先生は、「師弟不二」を主張している。牧口初代会長が唱えた創価教育学説を池田先生は広く宣揚し、そして間違いなく実行している。一つの例をあげれば、牧口先生は「子どもの幸福こそ第一義と主張した。子どもは一個の人格であり、子どもの可能性を伸ばすことこそ教師の役割である。子どもを信じるのが肝要であり、教育はただの管理ではなく慈愛である<sup>(21)</sup>」と言われた。池田先生は上記主旨をよく語っておられる。これらは、池田先生の人間尊重、人間信頼の優れた教育方法である。だからこそ、多くの人が池田先生に賛同するのである。

「教育こそ人生の最極の聖業である」、この池田先生の簡潔な一言は教育者への最大の激励である。しかし、教育は「人生最高至難の技術であり、芸術である。これは世上の何物にも変え難き、生命という無上宝珠を対象とするに基づく<sup>(22)</sup>」。中国には人間教育の至難についての諺がある。「木を育てるのは十年、人を育てるのは百年」。ゆえに教師は先ず勉強しなければいけないのである。池田先生は中国の古典書『礼記』の一節をよく引用されている。「苟に日に新たに、日に日に新たに、又日に新たなり」全くこの名言の通り、知識を更新しないと立ち遅れる。教師の資格も失ってしまう。「強将の下に弱卒なし」という説があるほど、学生は教師への期待が大きい。中国の教育界には次の言葉が現在流行している。「名門校に入学できるのはいいことであるが、名門校よりむしろ立派な教師に恵まれたほうが何にましても良い事である」。

池田先生は学生にも明確な要望がある。「勉強第一」、「勉強はやっておけば、やっておくほど、一生の基盤を確立したことになる<sup>(23)</sup>」、「勉強して、勉強し抜いて、まだ足りないくらいである。うんと勉強しなさい<sup>(24)</sup>」と。やはり、「子曰く、学んで時にこれを習う。亦悦ばしからずや」という精神がいる。

池田先生は更に読書について細かい指導をされている。例を交えて説明するなら、「読書はあらゆる人生体験を教えてくれるのである<sup>(25)</sup>」。まさしく読書と勉強を通して、はじめて英知になるのである。

中国に今日、流行している言葉がある。「先生は学生に道を教えるが、学生が成功するかどうかは努力次第である」。

#### (4) 教育と社会の関係

近年来、池田先生は、『社会のための教育』から『教育のための社会』へ」と言う点を強調されている。この問題はコロンビア大学宗教学部長のロバート・サーマン博士が提起している。池田先生はこの方とは何回も会われたことがある。この問題に対して、お二人が共同認識を持たれ、2000年の秋、池田先生は21世紀に向けて、「教育のための社会を目指して」と題する「教育提言」を行った。

池田先生の教育提言は、教育界が抱えている弊害や問題を指摘された。例えば、いじめ、不登校、学力低下、暴力等諸問題を列举され、また、解決する方法をも模索されている。人間を成熟させる教育の機構を完全にすること、教育権の独立、人間対話など提案された。しかし、池田先生は更に熟慮を重ねられ、やはり「社会のための教育」から「教育のための社会」へ転換することが問題を解決する最善の方法だと思われた。表面から見れば、ただ「教育」と「社会」、二つ語彙の場所が変わっただけかも知れないが、中身は相当違う。このことにふれて、中国の俗語を思い出した。「芝居を鑑賞する場合、芸術のセンスがない人は賑やかさだけを見るが、芸術に造詣のある人はその道を吟味する」。ともに池田先生のこの主張の意義を深く考えていき

たいと思う。

僭越であるが、先ず私なりの理解を発表させていただく。「教育のための社会」は良い人、良い社会を創造する“根本”である。「社会のための教育」は根本に反して、枝である。木を育てることで比喩すれば前者は木の根であり、後者は木の枝である。木の根がしっかりできるなら、茫茫たる枝も生えてくる。更に一步分析していくと、もし、全社会が力を合わせて、いろんな角度から教育を支持し、応援すれば、多くの教養と英知の有る人材を育て、人間の資質を高めるだけでなく、社会全体の素養も高くなるであろう。これらによって教育の弊害を解決しながら、よい社会をも築きあげられる。中国語で表現すると根本を掴んだならば一切の問題はたやすく解決できる。一般の教育者は池田先生のように遠くまで見えない。それは視野、知識、経験、見聞の差があるからだと考える。私はただ社会のためによい人を育てられれば満足していたが、どのような社会になるかあまり念頭に入れていなかった。やはり学問には限りはなく、生きている限り学び続けていかなければ、時代に遅れた存在になってしまうであろう。

## 5. 教育への貴重な貢献

上記の不完全な資料を分析しただけでも、池田先生の教育への貴重な貢献が見い出せる。

池田先生の等身大を超えた著作を読む時にちょっと留意すればとても特徴がある。よく使われている語彙に気が付く。ご著述の主旨を連結して見ると、脈絡がはっきりしている。“人間”、“民衆”、“人生”を大切に、その後“使命感”を持って学び、或いは働き、その中で相互に信頼をして、勇気を出して、勝利を勝ち取って、その過程で英知を得て、歓喜と幸福を感じると、私はこのような読後感想を持つ。

教育実践のなかにもかく、池田先生のあらゆる言動には人間革命という主旨が貫ぬかれている。どのような問題を語られても、ごく自然に、人間革命、人生、生き方等に触れられる。これは誰もが切り離すことが出来ない人間の原点であるが、難しいことでもある。であるから池田先生は繰り返して説明をなされる。簡潔に言えば池田先生はよい人間を育てるため、常に人の心を耕し、人の勇気を励まし、人の知恵を開発しているとしみじみ感じる。例をあげると、池田先生は人を激励するため、勝利の“勝”の文字がある語彙を15以上使われる。例；勝つ、勝る、勝利、大勝利、勝利者、完勝、連勝、常勝無敵、勝負、勝ち誇り、勝ちなむ、勝ち抜き、勝どき、勝ち取れ、勝ち得る、勝ちまくれ、勝機。人に教育的効果を与えるため、池田先生の講演、スピーチの内容と言葉使いは、生き生きして活発で、知識性、国際性に富む特徴があると思う。これは池田先生がすばらしい経歴を持たれ、識見が広いということを傍証なさっておられるのである。そして、啓発的で覚えやすいである。たとえば、“最大”、“大勇”、“太陽”、“宇宙”などがある。これは私なりに研究したのであるが、人間の潜在力は想像以上に大きいのである。普通の人は大脳のわずか20%しか使わない。良性循環の人間は歓喜と幸福感があるから、自分の積極性と知恵を多く掘り出すことが出来る。言うまでもなく、このような人間は優れた成績が収められ、社会への貢献も大きい。歓喜と幸福感があれば人体は有益なホルモンを分泌している。笑う門に福来ると同じ理屈である。それに自信が生じて、創造的人間になることにも寄与すると思う。

上記の人間が多いほど、よりよい社会を作ることが出来る。社会全体も良性循環を迎えられる。太平且つ繁盛に恵まれるなら、必ず燦然たる文化も生まれるし、世界平和も迎えられるであろう。池田先生の平和、文化の大事業も大発展期を迎えるに違いない。そして、そればかりでなく同時に池田先生の人間学の勝利でもある。池田先生が教育という根本をしっかり掴んで

十年一日の如く携わって来られた道はまったく正しいと思う。池田先生はすでに目に見える多大な成果を収められた。これらは教育への大きい貢献だと思う。

人間は万物の長である。人間は歴史を創造する原動力である。人間社会が安定と発展できれば人類の文明も進歩を見せる。池田先生は人間社会の肝心のことを掴んで、広い分野で価値を創造して来られた。2600年前、中国の春秋時代の政治家である管仲（不明一紀元前645）は皇帝を補佐して、斉国を立派な国家にした。彼の名言の一つは、「人を以って本と為す」であった。そして管仲は人間を尊重し、人間を信頼して、いろいろな業績を収めた。後世の人間は彼を記念するために、『管子』という本を綴った。彼が存命中に、成功裏に実行した政治、経済、法制度等を書き込んだ。ご存知の通り、‘子’は先生の意味で尊敬語である。中国語の中には、尊敬語はとても少ない。

人民のためによいことをやった方を人民は絶対に忘れないのである。池田先生は人間学の提唱者であり、成功者でもある。池田先生の人間学を論述するすべては教育の為の立派な教材である。その中に、哲理を持った名言名句はすでに大勢の人に引用されている。例えば、「信念の人は、絶望と無縁である」、「情熱こそ創造の源泉」など多数ある。これらも教育への得難い貢献である。同時に教育学への学術貢献でもある。

## まとめ

以上の諸理由で、池田先生は偉大な教育者の名にふさわしい方であります。先生のエデュケーション思想は日本と世界の教育史に輝かしい1ページを残されると私は信じてやみません。

長時間、ご静聴いただきまして、まことにありがとうございました。

（本稿は、2003年6月15日に講演された内容に加筆・訂正したものです。）

## （注）

- (1) 聖教新聞社編集委員会『創価学会指導集』（聖教新聞社、1976年6月）311頁
- (2) 池田大作「教育の道 文化の橋—私の一考察—」（北京大学での記念講演）1990年5月28日
- (3) 池田大作『人生抄』（聖教新聞社、1983年2月）206頁
- (4) 季羨林、蔣忠新、池田大作鼎談集『東洋の智慧を語る』（東洋哲学研究所、2002年10月）76頁
- (5) 池田大作『21世紀の教育と人間を語る』（第三文明社、1997年6月）209頁
- (6) 相賀徹夫編集『大日本百科全書』16巻、（小学館、1987年9月）
- (7) 『偉大なる「師弟」の道 戸田城聖』（潮出版社、2002年9月）32頁
- (8) 前出『創価学会指導集』39頁
- (9) 「大白蓮華」（聖教新聞社、2003年6月号）105頁
- (10) 前出『21世紀の教育と人間を語る』41、61頁
- (11) 池田大作『人生の座標』（グラフ社、2001年10月）146頁
- (12) 前出『創価学会指導集』40頁
- (13) 同上 276頁
- (14) 前出『人生の座標』146頁
- (15) 前出『創価学会指導集』51頁
- (16) 篠原誠「創立者と学生—全員が創立者の精神で—」（『創価教育研究 創刊号』、2002年3月）58頁
- (17) 前出『創価学会指導集』306頁
- (18) 同上 310頁
- (19) 同上 317頁



- (20) 前出『21世紀の教育と人間を語る』47頁
- (21) 同上 4頁
- (22) 同上 30頁
- (23) 前出『創価学会指導集』173頁
- (24) 同上 162頁
- (25) 同上 218頁